

一般質問

一般質問とは、市の一般事務や市が抱える課題等について市長などにたずぬもので、**9月定例会では17人の議員が一般質問を行いました。**ここでは広報委員会では抜粋し、事項別に整理した一部の内容を掲載しています。

一般質問の全文は、11月下旬作成予定の本会議録を図書館や鎌倉市議会ホームページ内「会議録検索システム」でご覧ください。

鎌倉市の防災対策

鎌倉市の防災対策について、次のような視点から質問が行われました。

【災害時の支援】

質問：今回の東日本大震災で被災された方々に鎌倉市としてはどのような支援をしているのか。

部長：市職員の被災地への派遣、支援物資の受け付け・現地への送付、避難所の設置を行っている。また、市費と救済基金により、住宅提供支援、生活支援、就労支援、ボランティア活動支援などを行っており、特に鎌倉市に避難されている方については住宅入居支度金、生活支援金、住宅家賃

千	一	「重度訪問介護について」「江ノ電七里ガ浜駅のバリアフリー化について」「災害時の姉妹都市の連携についてのその後」「認知症の方のショートステイの現状とこれからについて」「鎌倉市の移動支援への30時間をもっと時間を多く色々なことに使えるように」
渡辺	隆	「鎌倉市の防災について」「和賀江嶋の保全について」
西岡	幸子	「生存権と生活保障」
松中	健治	「鎌倉のまちづくり」「鎌倉の町の姿について」
長嶋	竜弘	「『いじめ防止プログラム』と『スクール・パティ』について」「被災者の支援について」「3・11の震災から学ぶ鎌倉の防災について」
吉岡	和江	「福祉の充実について」
中澤	克之	「防災について」「子どもの環境について」
高野	洋一	「津波対策について」「生涯学習の核としての図書館運営について」
三宅	真里	「鎌倉市の防災対策について」「将来を見据えたごみ処理政策について」
久坂	くえ	「学校における防災対策について」
太田	治代	「事業評価の在り方について」
納所	輝次	「鎌倉市におけるPRE（公的不動産）戦略について」
石川	敦子	「改正介護保険法の視点と鎌倉市の課題」
岡田	和則	「まちづくり」「鎌倉市職員給与について」
渡邊	昌一郎	「平成23年度鎌倉市青少年国際交流事業について」「観光資源ネットワーク構築及び着地型観光商品開発等にかかる支援業務について」
前川	綾子	「鎌倉市の障害児支援事業について」
飯野	真毅	「災害対策について」「子どもの居場所について」「ごみ行政について」

駐車場賃料などの助成を行っている。

質問：鎌倉市として災害が起こったときのために、災害基金のようなものをつくってはみてはどうか。

部長：大災害が発生した際に、素早い対応を行うために、災害支援対策基金というのの一つの方策だと考える。今後の検討課題にしたい。（健康福祉部・防災安全部）

【避難訓練】

質問：災害時、鎌倉市で指定した避難場所には逃げなければならぬのか、という質問をよく聞くがどうなのか。

部長：災害の種類・規模、住んでいる場所、被害の状況などによって避難場所も異なってくると思われる。日頃から複数の避難場所を家庭や地域で確認しておくことをお願いしたい。

質問：災害時、停電になると、避難所や避難経路がわからない、特に、観光客はどこに逃げたらいいのかかわからない状況になると思うが、いかがか。

部長：大規模停電時には、市を初めとして、地域の自主防災組織、消防、消防団、警察など関係機関等が連携をして避難者の安全確保を行いながら誘導をしていく。また、停電時でも長時間光り続ける蓄光型避難誘導標識の導入も今後、調査・検討していきたい。

質問：幼稚園や保育園など子供たちを預かっている施設

行財政改革

行財政改革について、次のような視点から質問が行われました。

【事業評価の在り方】

質問：今年の市民事業評価（鎌倉市版事業仕分け）は委託せず、市民評議人が事業の目的や手法を質問し、討議する方式とした。討議人の選定方法を伺いたい。

部長：昨年度の仕分け人のうち希望者10名と、応募者から無作為抽選により、新規の討議人9名を選定した。

質問：評価対象事業はどのように選定したか。

部長：選定委員会で検討して9事業を選定した。加えて1事業については模擬評価を実施した。

質問：今後の事業評価の在り方について、市長の考えを伺いたい。

市長：本市の行財政改革を進

めるためには、大変有効な手法の一つであると考えている。今後は、議会や市民の方々から指摘をいただいている点を検証し、より効果的な制度として機能するように取り組んでいきたい。

【PRE戦略】

質問：本市の公共建築物も、建築後30年以上経過する施設が多く存在しているが、公共建築物の維持・保全システムの構築について、その進捗状況を伺いたい。

部長：平成22年度に基礎調査を行い、平成24年度からの運用を目指して、現在システム構築の発注準備を進めている。

質問：少子高齢化の進行により、今後、年少者向け施設や高齢者向け施設の需給バランスのミスマッチが出てくると思われるが、公

共施設の配置計画の策定はどこまで進んでいるか。

部長：今年度策定する公共施設の運営白書をもとに、来年度具体的な配置計画の策定に取り組む予定である。

質問：市所有の施設の耐震化の進捗状況はどうか。

部長：全体の約63%の建物が耐震化されており、学校の校舎・体育館は、改築計画のある大船中学校を除き、昨年度すべての耐震化が終了している。

学校以外の建物は約44%が耐震化されているが、平成27年度を目標に耐震診断を終わらせ、順次、耐震化に取り組んでいく。

質問：現在見直し作業中である鎌倉市総合計画後期実施計画において、**※PRE戦略**の考え方を位置付ける考えはあるか。

部長：PRE戦略の前段としてまず**※ファシリティー・マネジメント**を中期実施計画で実施し、これと共にPR

域で開催される防災講話、防災訓練に市の職員が出向いた際に周知を図っている。

【防災教育】

質問：沿岸地域における小・中学校の防災教育は何らかの実践に踏み出すべきではないかと思うがいかがか。

部長：特に沿岸部の第一小、御成小、第二小、腰越小、腰越中は、高台を二次避難場所として確保し、避難経路等を確認するために避難訓練を実施している。

質問：高齢化が進む鎌倉で、高齢者等を手助けするという意味で、中学生は力強い存在となる可能性があると思

E戦略の方向性は、今後の行政運営にとって重要なものと考え、後期実施計画に位置付けていかなければならないと認識している。

【職員給料】

（経営企画部）

質問：本市職員の平均年齢と給料の全国順位との関係は。

部長：全職員の平均年齢は44・1歳、平均給料は34万7千円で、全国の県と政令市を除く1731団体中、平均年齢は460番目、平均給料は73番目である。

質問：本市の**※ラスパイレス指数**はいくつであるか。

部長：平成22年は102・6で、政令市を除く県内市町村で3番目となっている。

質問：平均年齢と給料の全国順位の違い、ラスパイレス指数の是正など、今後どのような指標や基準で給料の適正化を図っていくのか。

部長：給料は、年齢だけでなく、学歴や経験年数、職務・職責等が支給額に反映され、また団体の規模、組織、職員構成等の状況が異なるため、平均年齢と給料が相関関係を示すとは必ずしもいえない。ラスパイレス指数も、団体の規模により、

組織、階級の構成等が異なり、指数が100を上下することがある。このため、これらの指標を参考にし、情勢適応の原則、職務給の原則、均衡の原則に照らし、総合的に検証したい。

【観光資源ネットワーク構築及び着地型観光商品開発事業】

質問：この事業の目的と内容はどんなものなのか。

部長：県が雇用機会をつくり出すために創設したふるさと再生雇用特別基金を活用し、鎌倉の新しい観光の魅力の把握、観光ネットワークの構築、これらを生かした**※着地型観光商品**の開発を行う事業である。

質問：2力年で5千万円以上の国の全額補助金事業であるが、コストと効果を含め、市長はどう考えるか。

市長：鎌倉の観光にとって着地型観光商品の開発は重要なものと思っている。事業内容や委託金額は精査しており、無駄遣いはないと考えている。引き続き十分チェックし、その成果を、鎌倉の観光振興に役立てていきたい。

【市民経済部】

用語の解説

※印の用語について解説します。

PRE戦略

国や地方自治体が所有する不動産を戦略的な観点からマネジメントし、「長期的」や「全体最適」などの視点に基づきその所有・利用形態を合理化する戦略。

ファシリティー・マネジメント

地方自治体では、公の施設の管理運営を総合的に企

ラスパイレス指数

国家公務員の給料月額を100として、地方公務員の給料月額が、国家公務員（同等の職種・経歴に相当）と比べてどの程度差があるか算出した指数。

着地型観光

観光地側の推奨する観光資源をもとに、ツアーや体験プログラムを企画・運営する観光形態。